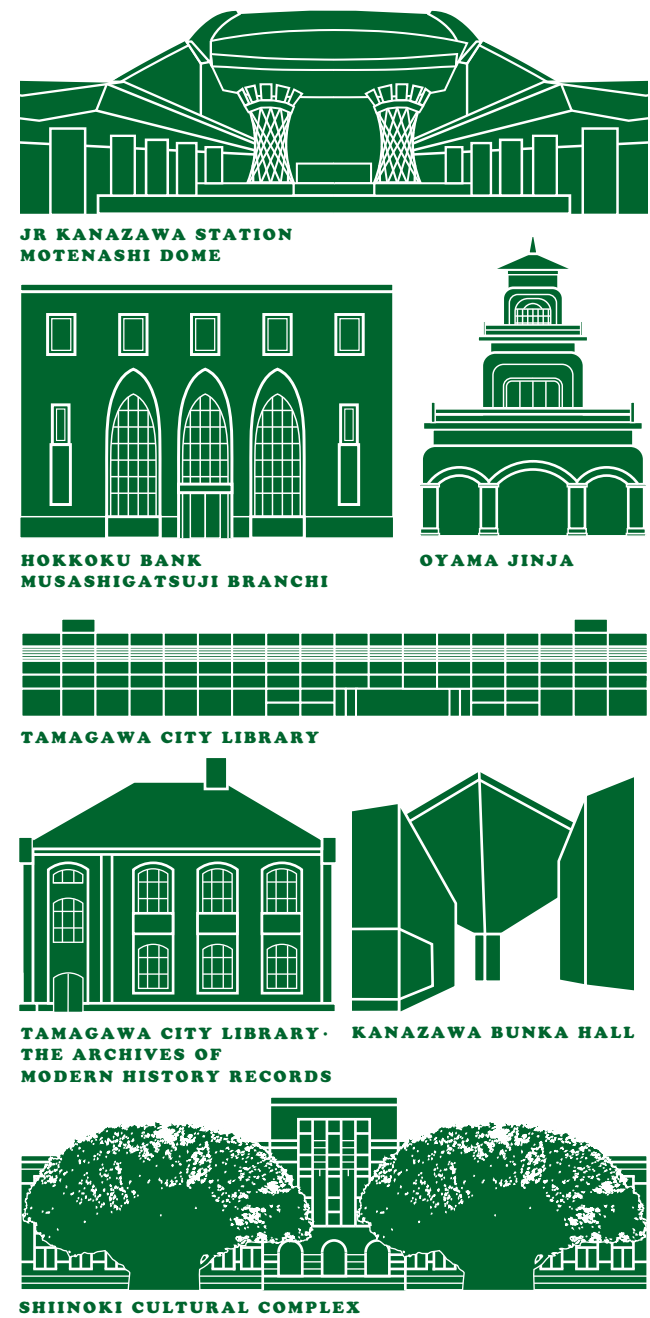


カナザワ ケンチク サンポ vol.2

カナザワエキ・ヤスエチヨウ・ムサシガツジ・
タマガワチヨウ・オヤマチヨウ・コウリンボウ
金沢建築散歩 金沢駅・安江町・武蔵ヶ辻・玉川町・尾山町・香林坊



A もてなしドーム
Motenashi Dome

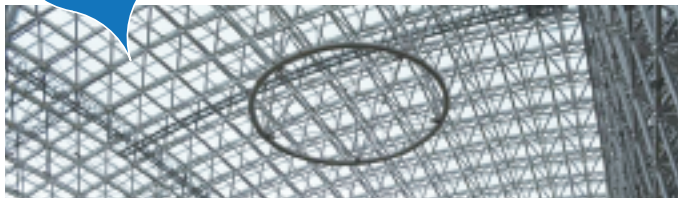
これが、金沢らしさ

最近メディアでも話題にあがる金沢駅。伝統を継承していく歴史的都市でありながら、新しいものも取り入れ進化する金沢らしさが、アルミフレームとガラスを使用した最先端のドームと

伝統芸能である加賀宝生の鼓をイメージした鼓門にあらわれています。訪れた人々に傘を差し出す、そんなおもてなしの心が詰まっている金沢の新しい玄関口です。

JRカナザワエキ モテナシドーム・ツヅミモン

PICK UP
KENCHIKU
01
JR金沢駅もてなしドーム・鼓門
JR KANAZAWA STATION
MOTENASHI DOME・TSUZUMI-MON
金沢らしさを追求したおもてなしの玄関口



B アルミ構造材
Aluminum Structure

緻密な計算の賜物

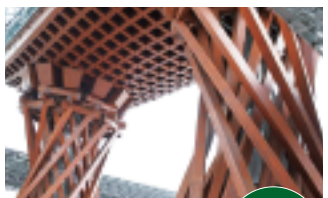
アルミ合金を構造材とし、それを補強するようにドーム内にはケーブルが張られています。中央部の星形のロッドで補強されたテンションリングに放射線状にケーブルが集まり大屋根を支えています。



C 地下広場
Underground Square

イベントブースとしても

もてなしドーム中央の大階段を下りると地下広場へとつながります。情報コーナーや中庭もあり、広場では雑貨市を行ったり演奏会を行ったりとイベントブースとしても使われています。



D 鼓門
Tsuzumi-Mon

デザインも機能性も

楕円状に二重に配置された柱に格天井の屋根がのり、伝統的な寺院建築をイメージさせる鼓門。実は門としての機能だけではなく、柱の中にはドームに降った雨を再利用するための送水管や地下の排気口が通っています。その横のバスの乗降場の屋根には太陽電池パネルを置き、電気を発電。機能を兼ね備え環境を考えた設計でもあります。

ホッコクギンコウ ムサシガツジシテン

北國銀行武蔵ヶ辻支店

HOKKOKU BANK
MUSASHIGATSUJI BRANCHI

村野藤吾若き日の貴重な作品

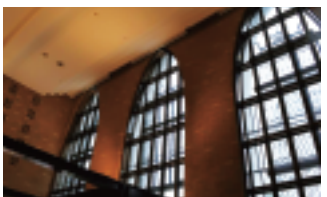


A 建築
Architecture

武蔵ヶ辻を20mお散歩した建築

建築家村野藤吾の若き日の貴重な作品。昭和7年に北国銀行武蔵ヶ辻支店として建造されました。近江町市場の再開発に伴い、曳家（建物を基礎ごと持ち上げ「ころ」を使って移動すること）

により、1日に6～7m、5日間で約20mゆっくり現在の位置へとお引っ越し。同時に、エムザの方向に向いていた正面も、金沢駅へと続く道にほんの少し向きを変えています。



B 内部空間
Inside

機能も増え楽しめる建築に

改装後、1階には銀行の支店の機能に加えてカフェが併設。3階にはギャラリーが入りアートを楽しめる空間に。かつて使用されていた金庫扉もインテリアとして展示。内部でもかつての面影を感じさせ、楽しめる空間へと変わりました。



D 外部空間
Outside

こだわりは細かなところまで

鉄筋コンクリート造3階建てでトップアーチと正面ファサードの構成、タペストリータイルの外観が特徴となっています。外観は手挽きの揚げ茶色のスクラッチタイルを貼った直方体に、2階部分の高さを持つ大きな3つの表現的なシェルアーチ（砲弾型アーチ）がアクセント。アーチ内部の格子状の欄など、その装飾は目を見張るものです。

PICK UP
KENCHIKU
02



A 外壁
Wall

変化も計画の内

図書館正面の揚げ茶色の壁。実は錆びにとっても強いコルテン銅という金属素材で、自ら錆ることで膜を作り、内部まで錆びていくことをブロックするというユニークな材料。外壁は年月と共に深く落ち着いた色味へと移ろってゆくところまで計画して使用されています。



B 赤煉瓦
Red brick

赤煉瓦のアクセント

大正から平成まで、1世紀もの歴史を刻んだ赤い煉瓦壁。赤煉瓦は歴史の深みや重みを感じさせながらもアーチ状の白いサッシが一本調子の煉瓦壁を軽やかに魅せています。

タマガワトショカン

PICK UP
KENCHIKU
03
金沢市立玉川図書館
TAMAGAWA CITY LIBRARY
時代を超えた親子共同作品



C 歴史
History

時代を超えての融合

煙草工場として建てられた煉瓦造の棟が別館近接しています。二つの棟を繋げる本館の中庭ブリッジにご注目。本館部との間に別館の煉瓦棟の意匠を取り入れることで、外観の違う2棟を融合させています。



D 親子共同作品
Collaboration

谷口親子の共同作品

この一体は元々、明治時代に建てられた煉瓦造の煙草の専売工場でした。煙草工場が別の土地に移動したことで、残った工場跡の一部を近世史料館としました。その建物に付随する本館を、

金沢出身のモダニズム建築家の父と呼ばれる建築家谷口吉郎が監修し、その息子であるニューヨーク近代美術館などを手がけた谷口吉生が設計した、親子唯一の共同作品。



A 広坂緑地
Hirotsaka Park

何もない贅沢

元々石川県庁舎の建物が広がっていたところは、全面芝生の開放感溢れる広場に。金沢城の石垣側にかけて広場を山なりにしたことで、建物の眺望から、広場と石垣間の道路を隠し、緑が広がるよ

うに見せています。普段は市民が散歩したり環状んだり、イベント時にはテントが並び、しいのき迎賓館の大きな魅力の一つとなっています。



B リノベーション
Renovation

身近になった元お役所

老朽化が進み、取り壊す計画だった旧県庁。しかし、古き良きものを残したいという想いから、一部分を残したりリノベーションの手法で生まれ変わりました。今ではお役所だった当初の面影も感じられる市民の憩いの場として多くの人に利用されています。



C 二つの顔
Hybrid

2つの顔をもつ建築

表側は昔のままの煉瓦の姿でお出迎え。広場側は明かりを取り込み、景色を見せるガラスのニューフェイス、と、二つの顔をもつ。表側には、樹齢約300年にもなる堂形の2つの大きなシノキが今も昔も訪れる人々を見守り続けます。

シイノキゲイヒンカン

しいのき迎賓館

SHIINOKI CULTURAL COMPLEX

ふたつの顔をもつハイブリッド



D 構造
Structure

石川県初のRC造。

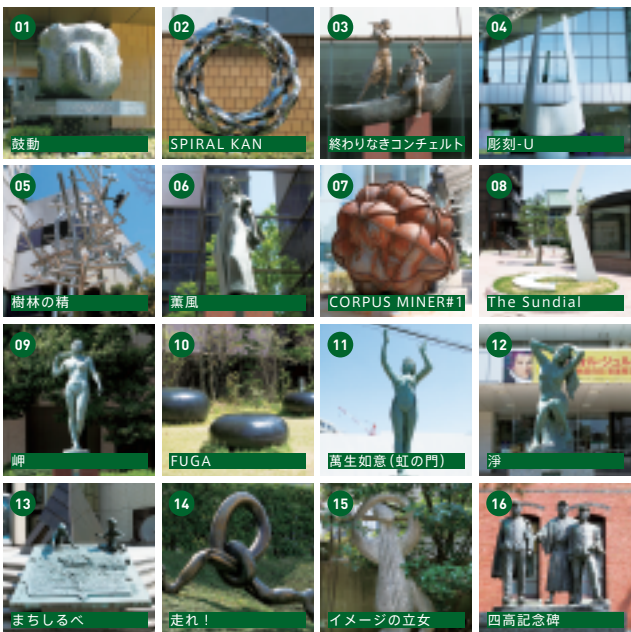
大正時代に石川県で初のRC造として建てられた旧石川県庁舎。構造図もない時代、コンクリートを上手に打つ技術もなく、建て替え調査時に解体すると、床の厚さもまばらな仕上がりになっていたことが判明。最も薄いところで5cmの床厚

でした。現在鉄筋コンクリート造と鉄骨造で造られているしいのき迎賓館。旧県庁部をもたせるために、基礎には免震構造を採用。地下にもぐるとその最新技術が見れちゃいます。

たくさんのアートがあなたをお出迎え

カナザワ アートアベニュー

金沢アートアベニューとは、市民や観光客が散策しながらアートを楽しめる空間。2004年からは、「金沢まちなか彫刻作品コンペティション」が実施され、金沢駅から市中心部までの沿線を舞台に様々な現代アート作品が見られます。また、昭和43年ごろから彫刻が設置されているなど、年代の違いによるパブリックアートも見ることができます。



疲れたら自転車で、スイスイ、ラクラク

まちのり

まちとまちの移動におすすめなのが自転車シェアシステムまちのり。乗り継いで移動するので停める場所にも困りません。歩くのもよし、漕ぐのもまたよし。



04 玉川公園
Tamagawa Park

本を読むのにちょうどいい。

⑩ 玉川図書館で借りた本を読むにもちょうどいいこの公園。自転車であぐらに走り抜ける人を横目に、外での読書はいかがでしょう。夕方には夕日が差し込み、ちょっと感傷的になってみたり。

11 中央公園
Central Park

カナザワセントラルパーク。

⑫ まちなかの屋外イベント会場と言えばここ。まさにセントラルパーク。中心市街地の緑地率が高いのは珍しく、市民も木々たちも誇らしげ。再整備によって更に安全に、緑も育ちやすくなりニュアール。お昼も夜も、お散歩にはもってこいのスポットです。

